○ 12 月の人権に関する月間・週間・記念日「人権週間 12/4 ～ 12/10」「人権デー 12/10」「世界エイズデー 12/1)」「障害者週間 12/3~12/9」「北朝鮮人権侵害問題啓発週間（12/10 ～ 12/16）」

十島村教育委員会だより　令和元年11月号

心わかかーカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

11月・・・南日本文化賞

十島村教育委員会
教育長　有村　孝一

この度、悪石島のボゼが南日本文化賞という素晴らしい賞を受賞しました。悪石島の島民ならずとも十島村民みんなで祝おうではありませんか。

ところで、南日本文化賞について少し説明してみたいと思います。この賞は南日本新聞社の主催で行われているものです。第1回が昭和25年に始まりまして、今年で70回目を迎えています。歴代の受賞者を見てみますと、それぞれの時代をけん引していった方々で、まさに当時の鹿児島県のリーダーといわれる方々が受賞をされています。

そのような賞を、「悪石島の盆踊り」保存会が受賞したということは、大変にありがたいことだと思います。

11月１日に行われました贈賞式には、陶芸家の有山長佑さん、火山学者の井口正人さん、社会福祉法人の「太陽会」、種子島アクションクラブなど、個人と団体の皆さんが集まりました。それに、特別賞の「来訪神：仮装・仮面の神々」のトシドン、メンドン、そしてボゼの保存会の皆さんでした。

表彰を受ける有川和則会長は、誇らしく堂々と賞状と盾それに知事表彰を受けました。表彰式後に行われましたレセプションにおいて、有川会長は、「今回受賞しましたボゼですが、毎年、旧暦で行われる盆行事の最終日に現れます。悪石島の島民にとっては、先祖代々、四百年以上前から受け継がれてきた年中行事であります。島民（ひとびと）の邪気を追い払い、幸をもたらすものであり、島の誇るべき風習であり、伝統行事であります。昨年11月29日、アフリカのモーリシャスにおける政府間会議において、ついにユネスコの無形文化遺産に登録されました。パブリックビューイングで見ていました私は、今でもあの感激をしっかりと覚えています。いつまでも忘れることのない出来事の一つになりました。わたしたちが、これまで行ってきています盆行事が、国の重要無形民俗文化財に指定され、そして、ユネスコへの登録、さらには、今回の南日本文化賞をいただくという栄誉はたいへんありがたく、光栄に存じます。このことは、悪石島民はもちろんのこと、十島村民すべての誇りだと思います。ここまで島民が、力を合わせて守ってきました『悪石島の盆踊り』そして『ボゼ』です。

有川和則保存会長へ特別賞の贈呈

今回の受賞を糧（かて）にして、さらに保存・伝承への思いを強くしたところです。私たちは今後も、これまでと変わることなく盆行事及びボゼの保存伝承を続けていきたいと思います。」という挨拶をされました。

このように、有川会長さんが言われるように、ボゼは悪石島だけでなく、十島村の誇りでもあります。今後は、今回の受賞を糧に、ますます、末長く伝承していっていただきたいと思います。

なお、12月1日には、今回特別賞を受賞いたしました3団体が黎明館に集まりまして、シンポジュウムを行うことになっています。まだまだ、ボゼの活躍は続きます。

第７０回南日本文化賞を受賞された個人，団体の方々

令和元年度　前期鹿児島県ランキング「体力アップ・チャレンジかごしま」

○　小学校

２年生・・・「馬跳びピョンピョンピョン」
３位：宝島

４年生・・・「レッツ短縄跳び」　１０位：悪石島
「一輪車でＧＯ！」　３位：口之島
「馬跳びピョンピョンピョン」
１位：悪石島
「２人でさっさっ」　３位：悪石島

６年生・・・「10人でチャレンジ」７位：中之島
「レッツ短縄跳び」　２位：悪石島
「一輪車でＧＯ！」　５位：悪石島
７位：小宝島
「馬跳びピョンピョンピョン」
１位：悪石島
「２人でさっさっ」　２位：悪石島

○　中学校

３年生・・・「馬跳びピョンピョンピョン」
４位：悪石島
「２人でさっさっ」　７位：悪石島
１０位：口之島

どの学校でも体力作りに取り組み大きな成果を上げています。記録等は鹿児島県教育委員会のＨＰに掲載されています。

（令和元年１０月３日　南日本新聞「ひろば」掲載）
島一体、子供10人の運動会　竹下　和子（十島村）

人口六四人の島の小・中学校合同の運動会があります。台風で開催が危ぶまれましたが、ほとんどの住民が参加して一緒に楽しみました。

小・中学生あわせて一〇人の生徒すべてが主役です。それぞれが役割を担って立派にこなしている姿を見ると、頼もしく感じました。竹馬乗り、一輪車、金輪回しなど夏休みすぎから暑い中で頑張っているという様子を見ていました。やればできるという自信がみなぎっていました。

山海留学生の４人の子供たちもすっかり島になじみ、各競技頑張っていました。楽しく暮らしている姿を見ると、大声で応援していました。

島民全員で踊ったフォークダンスでは、一人一人の手を握ってあいさつを交わしました。より親しみが伝わる運動会でした。子供、先生、住民の垣根が取れたひとときでした。この子供たちの成長を、みんなで見守っていこうという気持ちが湧き上がってきました。

（令和元年１１月２日　南日本新聞「ひろば」掲載）
「３本の矢」のように一致団結　腰　俊昭（十島村）

宝島小・中学校の児童生徒会役員改選が行われた。本校は小中併設校であるため、役員は児童生徒二十人全員をリードする重要な立場となる。

今回の改選で、私が担任する中学１・２年学級の３人が新たに会長・副会長になった。選出された瞬間、表情がきりっと引き締まるのが見えた。３人とも前を見据えながら、自分の言葉でこれからの抱負を堂々と発表した。頼もしさを感じてうれしかった。

３人の生徒はそれぞれ持ち味がある。得意なことや苦手なことも、互いに理解している。だからこそ自分のできることに取り組むのはもちろん、支え合いながら新たなことに積極的に挑戦してほしいと願っている。１人では難しいことも、協力して乗り越えてほしい。

「３本の矢も束ねれば強い」という話がある。３人が一致団結して力を発揮し、宝島小・中学校に新たな風を吹かせてくれると確信している。

おめでとうございます。

○　「家庭の日」作品展
ポスターの部　優秀賞
平島小６年　新田真央さん

○　「第６７回学校新聞コンクール」
３席：宝島小中学校「メイメイ」
佳作：口之島小中学校「タモトユリ」
平島小中学校「タイラの風」
小宝島小中学校「うね神」

○　かごしま無形民俗文化財伝承活動表彰
奨励賞　口之島盆踊り保存会
口之島小２年　岡本愛理さん
口之島小４年　岡本悠真くん
口之島小４年　肥後海翔くん
口之島小６年　肥後優衣花さん
口之島中２年　長谷川宇宙くん

【平島小・中学校からのメッセージ】
教頭　新田　義明

物がなくても　豊かな生活

４月に赴任してきて，約半年が経ちます。当初は，無い無い尽くしの生活に,途方に暮れることもありました。そんなある日，地元のＫさんがおっしゃった言葉が，私の考えを変えました。

「何もないから，工夫をするんだ。ある物を使って，何とかするんだ」と。

物があふれ，欲しいものがいつでも手に入る暮らしの中では，忘れてしまいがちなこと。十島の自然や人や伝統が，それに気づかせてくれます。経験の中で得た知識や技術を使って，豊かな生活をつくり出しています。

新学習指導要領が掲げる，育成すべき資質・能力の三つの柱の１つに『どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか』とあります。十島の豊かな教育環境は，複雑で予測困難な未来に向かって，たくましく生き抜く子どもたちを育ててくれています。

『教職員仲間であるあなた』への
私からのメッセージ

満天の星空，季節ごとの渡り鳥，群れを成して泳ぐ魚等々。理科教員である私にとって，平島の自然環境は最高の場所です。サソリモドキには，まだ慣れませんが･･。

シリーズ・・・十島村で学ぶ
諏訪之瀬島中学校　２年　豊田　愛子

宝物の１ヶ月

「あなたは，白組団長をお願いします。」

それを聞いた瞬間，私は大きな不安に包まれた。その日は一日中そのことで頭がいっぱいだった。「私に団長が務まるのか，応援団でさえ今まで一度もしたこともないのに。」とネガティブ思考になっていた。そんな私の背中を押してくれたのは，団のメンバーだ。

最初の練習は，団ごとの演舞，団長の私が仕切らないといけない。一番苦手と感じていたことだった。しかし，その練習が終わった後の私は，やる気に満ちあふれていた。それは，団のメンバーが一生懸命声を出してくれたからだ。当たり前だと思うが，とってもうれしかった。その後の練習でも，みんなが一生懸命動きを覚えようとしてくれた。当たり前だと思う人もいるだろう。それでも，私にはそれがとっても嬉しかった。みんなが一生懸命動きを覚えようとしてくれていた。みんなが，この団で頑張ろうと思ってくれているのだということに気づいた。「このままじゃいけない。」と思い，家でビデオを確認したり，赤団の練習方法をまねてみたり，私に団のためにがんばろうと思わせてくれた。白団メンバーのために。

それからの一ヶ月間，顧問の先生や副団長からの厳しい言葉に何度か心が折れそうになることもあった。練習が上手くいかず，涙を流すこともあった。私が頑張れたのは，その分，たくさんの人に支えてもらったからだ。学んだこともたくさんある。一番身に染みて感じたのは，周りの人の温かさだ。「最近声が出ているよ。」「団長として頑張ってくれてありがとう」と周りの先生や小学生から声をかけられた。大会当日も，劣勢のときに島民のみなさんが一緒になって声を出して応援してくれ，「これからだよ。」と声をかけてくれた。諏訪之瀬島には温かい人がたくさんいると実感できた。周りの人の支えがなかったら，私はボロボロになっていたと思う。この学校で団長を務めることができて良かったと今では思える。長くて短かったこの一ヶ月間は私にとって最高の宝物になった。